# こどもの居場所に関する実態調査結果について

資料2

## 1　調査の概要

### （1）　目的

　フリースクール等に関する支援の在り方について検討するため，小中学校，義務教育学校，高等学校，特別支援学校における長期欠席者及び保護者の支援ニーズやフリースクール等の施設の状況等を把握する。

### （2）　調査概要（14～15ページ）

※括弧内は報告書全体版における該当ページ

ア　調査期間

　令和6年12月から令和7年2月まで

イ　調査対象者

　県内小中学校，義務教育学校，高等学校及び特別支援学校に在籍している長期欠席者（30日以上）及びその保護者，県内のフリースクール等の子どもの居場所となっている施設

ウ　調査協力者数

①　児童生徒数　555人（小学生　205人，中学生　283人，高校生　65人，無回答　2人）
②　保護者数　676人（小学生　255人，中学生　345人，高校生　74人，無回答　2人）
③　施設数　37か所

エ　回収率

①　児童生徒　555/5,302＝10.5％
②　保護者　676/5,302＝12.7％
③　施設　37/132＝28.0 ％

# ２ 調査結果（児童生徒）（抜粋）

## ア 児童生徒の属性（16～17ページ）

① 児童生徒の学年「中学2年生」の割合が最も高く20.7%である。次いで，「中学3年生（17.5%）」，「中学1年生（12.8%）」である。

| 学年（N＝555） | N | % |
|---|---|---|
| 小学1年生 | 11 | 2.0 |
| 小学2年生 | 20 | 3.6 |
| 小学3年生 | 27 | 4.9 |
| 小学4年生 | 44 | 7.9 |
| 小学5年生 | 37 | 6.7 |
| 小学6年生 | 66 | 11.9 |
| 中学1年生 | 71 | 12.8 |
| 中学2年生 | 115 | 20.7 |
| 中学3年生 | 97 | 17.5 |
| 高校1年生 | 23 | 4.1 |
| 高校2年生 | 26 | 4.7 |
| 高校3年生 | 16 | 2.9 |
| 無回答 | 2 | 0.4 |

② 居住する市町村（地域振興局・支庁管内）
「鹿児島地域振興局」の割合が最も高く42.2である。次いで，「姶良・伊佐地域振興局(18.6%)「北薩地域振興局（11.9%）」である。

| 圏域（N＝555） | N | % |
|---|---|---|
| 鹿児島地域振興局 | 234 | 42.2 |
| 南薩地域振興局 | 42 | 7.6 |
| 北薩地域振興局 | 66 | 11.9 |
| 姶良・伊佐地域振興局 | 103 | 18.6 |
| 大隅地域振興局 | 50 | 9.0 |
| 熊毛支庁 | 16 | 2.9 |
| 大島支庁 | 34 | 6.1 |
| 不明 | 10 | 1.8 |

③ 性別

| 性別（N＝555） | N | % |
|---|---|---|
| 男性（おとこのこ） | 239 | 43.1 |
| 女性（おんなのこ） | 289 | 52.1 |
| 答えたくない | 23 | 4.1 |
| 無回答 | 4 | 0.7 |

## イ　学校に行けなくなったきっかけ（25ページ）

児童生徒が，学校に行けなくなったきっかけを，児童生徒に質問した結果，「学校に行こうとすると不安が強くなった」との回答が最も多く55.4%である。次いで，「からだがきつかった」(45.2%)，「先生や学校の人がいやだった」（44.4%）などの回答が多かった。

| 学校に行けなくなった（行かなくなった）きっかけ　（N＝531）（複数回答可） | N | % |
|---|---|---|
| 学校に行こうとすると不安が強くなった（ドキドキして行けなかった） | 294 | 55.4 |
| からだがきつかった（頭が痛い，おなかが痛い，はきけがした　など） | 240 | 45.2 |
| 先生や学校の人がいやだった（こわいな，会いたくないな　など） | 236 | 44.4 |
| 朝起きようとしても起きられなかった | 235 | 44.3 |
| 気持ちがおちこんだり，イライラしたりした | 213 | 40.1 |
| 自分でもよく分からない | 186 | 35.0 |
| 勉強のこと | 165 | 31.1 |
| 学校のきまりやまわりの様子のこと（校則，クラス分け　など） | 140 | 26.4 |
| 学校の中の様子や音，においなどが気になった | 121 | 22.8 |
| 友だちと仲良くなれなかったこと（友だちがいない，なじめない　など） | 116 | 21.8 |
| いじめやひどいことをされたこと | 90 | 16.9 |
| 学校に行かないといけないと思わない | 53 | 10.0 |
| 特にきっかけはない | 41 | 7.7 |

## ウ　学校に行けなくなったとき，どんなところなら行きたいと思ったか（18ページ）

どんなところなら行きたいと思ったか，児童生徒に質問した結果，「何時に行ってもいい（遅刻，早たいをしてもいいところ）」との回答が最も多く50.8%である。次いで，「あなたの好きなペースで勉強できる」（45.9%），「ゆっくり休めるスペースがある」（44.2%），「ひとりきりになれるスペースがある」（43.5%）などの回答が多かった。

| 学校に行けなくなった（行かなくなった）とき，どんなところなら行きたいと思ったか。（N＝543）（複数回答可） | N | % |
|---|---|---|
| 何時に行ってもいい（遅刻，早たいをしてもいいところ） | 276 | 50.8 |
| あなたの好きなペースで勉強できる | 249 | 45.9 |
| ゆっくり休めるスペースがある | 240 | 44.2 |
| ひとりきりになれるスペースがある | 236 | 43.5 |
| 音楽を楽しんだり，絵をかいたり，工作ができる | 208 | 38.3 |
| インターネットやゲームをしたり，動画を見たりできる | 203 | 37.4 |
| 何もしなくてもいい（いるだけでいいところ） | 166 | 30.6 |
| あなたの好きな教科（国語や算数など）や内容の勉強ができる | 149 | 27.4 |
| 自然がゆたかなところでいろいろな体験（自然を観察したり農業を体験したりなど）ができる | 132 | 24.3 |
| スポーツができる | 101 | 18.6 |
| 友だちと話し合ってやりたいことをあなたが決めることができる | 90 | 16.6 |

## エ　学校に行けなくなったとき，あったらよかったと思う支援（28ページ）

まわりからどんなお手伝い（支援）があったら良かったと思うか，児童生徒に質問した結果，「学校以外の居場所（遊んだり，ひとりですごせるところ）があること」との回答が最も多く29.4%である。次いで，「家族（お父さんやお母さん，きょうだいなど）に相談できること」（20.9%），「学校のほかに勉強できる場所があること」（18.8%）などの回答が多かった。

| 学校に行けなくなった（行かなくなった）きっかけがあったとき，まわりからどんなお手伝いがあったらよかったか（N＝517）（複数回答可） | N | % |
|---|---|---|
| 学校以外の居場所（遊んだり，ひとりですごせるところ）があること | 152 | 29.4 |
| 家族（お父さんやお母さん，きょうだいなど）に相談できること | 108 | 20.9 |
| 学校のほかに勉強できる場所があること | 97 | 18.8 |
| 学校の先生に相談できること | 83 | 16.1 |
| 病院の先生に相談できること | 64 | 12.4 |
| 学校以外の相談できる場所があること | 56 | 10.8 |
| 学校の友だちに相談できること | 55 | 10.6 |
| お父さんやお母さんなど家族が相談できる場所があること | 54 | 10.4 |
| 学校のカウンセラーに相談できること | 47 | 9.1 |
| インターネットやSNSで相談できること | 45 | 8.7 |
| 家に相談できる人が来てくれること | 40 | 7.7 |

## オ　学校に行けなくなったとき，利用していた施設（20ページ）

学校に行けなくなったとき，利用していた施設について，児童生徒に質問した結果，フリースクール等に「よく行っている」，「ときどき行っている」と回答した割合は，合計で約23%であった。
また，いずれの施設にも行っていないと回答した児童生徒は，119名（21.4%）であった。

| 学校に行けなくなったとき，利用していた施設（N＝555） | よく行っている | ときどき行っている | あまり行っていない | 行っていない |
|---|---|---|---|---|
| 病院 | 9.7% | 24.9% | 19.5% | 37.1% |
| フリースクールや放課後等デイサービス | 13.3% | 10.1% | 5.0% | 61.8% |
| 教育支援センター | 3.1% | 4.3% | 4.9% | 76.4% |
| 図書館，公民館 | 2.7% | 7.6% | 15.1% | 64.5% |
| 子ども食堂 | 0.7% | 2.0% | 4.0% | 82.2% |

## カ　学校に行けなくなったとき，どのように過ごしていたか（20ページ）

学校に行けなくなったとき，どのように過ごしていたか，児童生徒に質問した結果，「家でゆっくりする」，「動画サイトで動画を見る」，「ゲームをする」などの回答が多かった。

| 学校に行けなくなったとき，どのように過ごしていたか（N＝555） | よくしている | ときどきしている | あまりしていない | していない |
|---|---|---|---|---|
| 家でゆっくりする | 76.2% | 15.7% | 2.7% | 0.9% |
| 動画サイトで動画を見る | 65.0% | 18.4% | 5.4% | 5.9% |
| ゲームをする | 44.7% | 21.3% | 12.3% | 14.6% |
| 外に出かける | 11.4% | 35.5% | 26.5% | 18.4% |
| 家で勉強する | 11.2% | 29.7% | 30.5% | 20.0% |

## キ　役だった・楽しかった活動（22ページ）

児童生徒が，フリースクール等で役に立った，楽しかったと考えている活動について，第1位から第3位までを選択させ，第1位の回答数に3点，第2位の回答数に2点，第3位の回答数に1点をかけ，集計を行った結果，「子どもたち同士で遊ぶ」，「ひとりで行う学習」，「料理を体験する学習」の得点が高かった。

| 通っていたフリースクールや放課後等デイサービスでやってよかった，役立った，楽しかった活動（第1位～第3位を回答） | N |
|---|---|
| 子どもたち同士で遊ぶ | 186 |
| ひとりで行う学習 | 102 |
| 料理を体験する学習（お菓子づくり，郷土食づくり　など） | 97 |
| 音楽を楽しんだり，絵をかいたり，工作ができる学習 | 85 |
| みんなと一緒に行う学習 | 79 |
| スポーツ活動 | 74 |
| 自然を体験する学習 | 70 |
| その他 | 44 |
| 社会を体験する学習 | 28 |
| 宿泊体験 | 24 |
| 子どもたちでのミーティング | 16 |
| 地域の人たちとの活動 | 3 |

## ク　児童生徒調査クロス集計の結果（抜粋）

【「学校に行けなくなったきっかけ」と学年との関係】（125ページ）

- 低学年では，「学校のきまりやまわりの様子（校則，クラス分けなど）」，「自分でもよく分からない」，「学校に行かないといけないと思わない」の割合が高い。
- 学年が上がるにつれて，「からだがきつかった（頭が痛い，おなかが痛い，はきけがしたなど）」，「朝起きようとしても起きられなかった」の割合が高くなっている。

【「学校に行けなくなったとき，行きたいと思った場所」と学年との関係】（33ページ）

- 低学年では，「音楽を楽しんだり，絵をかいたり，工作ができる」，「自然がゆたかなところでいろいろな体験（自然を観察したり農業を体験したりなど）ができる」，「友だちと話し合ってやりたいことをあなたが決めることができる」の割合が高い。
- 学年が上がるにつれて，「何時にいってもいい（遅刻，早たいをしてもいいところ）」，「何もしなくていい（いるだけでいいところ）」，「ひとりきりになれるスペースがある」の割合が高くなっている。

【「学校に行けなくなったとき，どんな支援があったら良かったか」と学年との関係】（129ページ）

- 低学年では，「家族（おとうさん，おかあさん，きょうだいなど）に相談できること」，「家に相談できる人が来てくれること」，「学校以外の相談できる場所があること」の割合が高い。
- 学年が上がるにつれて，「病院の先生に相談できること」の割合が高くなっている。
- 「学校以外の居場所（遊んだり，ひとりですごせるところ）があることについては，全ての学年で高い割合となっている。

## ケ　これから先，あなたがどのように過ごしたいか，どんな場所に行きたいか（自由記述・抜粋）（133～136ページ）

【学校への意識】

- 楽しく健康で暮らし，勉強も頑張って，大学に行って，学びたいことを学んで，仕事に就いて，楽しく幸せに暮らせるように今たくさんつらい事や色々経験していきたい。（中３女子）
- 私は「学校」が「先生」「生徒」という関係じゃない「人」と「人」の関係でいられ，私でいられる場所で過ごしたいと思っています。（中３女子）
- 自分は，楽しい毎日で過ごして，よりここち良い学校に行きたいと思います。僕は，自立に向けて頑張っているところです。（中２男子）

【自分のペース】

- 無理しすぎずに自分のペースで受験勉強していきたいです。（中２女子）

【居場所】

- 信用できる家族みたいな人が居る場所に行って勉強もして，高校や大学にも行ってみたい。でも，今はまだ遊びたい気分もある。（小２女子）
- 自分の家でゆるるんと過ごしたい。（中３男子）
- 何も考えずにいられる夢のような場所に行きたいです。（中３女子）
- 学校でも教室以外を自由に行き来できる場所があれば行きたい。（小１女子）

# ３　調査結果（保護者）（抜粋）

## ア　保護者の属性（138ページ）

① 子どもの学年「中学2年生」の割合が最も高く19.8%である。次いで，「中学3年生（18.0%）」，「中学1年生（13.2%）」である。

| 学年（N＝676） | N | % |
|---|---|---|
| 小学1年生 | 10 | 1.5 |
| 小学2年生 | 24 | 3.6 |
| 小学3年生 | 31 | 4.6 |
| 小学4年生 | 53 | 7.8 |
| 小学5年生 | 56 | 8.3 |
| 小学6年生 | 81 | 12.0 |
| 中学1年生 | 89 | 13.2 |
| 中学2年生 | 134 | 19.8 |
| 中学3年生 | 122 | 18.0 |
| 高校1年生 | 27 | 4.0 |
| 高校2年生 | 32 | 4.7 |
| 高校3年生 | 15 | 2.2 |
| 無回答 | 2 | 0.3 |

② 子との続柄

| 続柄（N＝676） | N | % |
|---|---|---|
| 父 | 42 | 6.2 |
| 母 | 624 | 92.3 |
| 祖父 | 0 | 0.0 |
| 祖母 | 2 | 0.3 |
| その他 | 5 | 0.7 |
| 無回答 | 3 | 0.4 |

③ 学校へ行っていない日数

子どもが学校に行っていない日数は「180日以上」が最も多く47.5%，次いで，「20日～60日（20.1%）」である。

| 日数（N＝676） | N | % |
|---|---|---|
| 20日～60日（※） | 136 | 20.1 |
| 60日～90日 | 89 | 13.2 |
| 90日～120日 | 54 | 8.0 |
| 120日～180日 | 55 | 8.1 |
| 180日以上 | 321 | 47.5 |
| 無回答 | 21 | 3.1 |

※ 調査対象者は，全員，欠席日数30日以上

## イ　相談機関・支援機関を利用しなかった理由（141ページ）

相談機関・支援機関を利用しなかった保護者に対して，それぞれの相談機関・支援機関を利用しなかった理由を質問した結果，スクールカウンセラー，医療機関，フリースクール以外の相談機関・支援機関については，「知らなかったから」の割合が高い。

| 相談機関・支援機関を利用しなかった理由（単一回答） | 子どもが嫌がる | 他の機関利用 | 利用料高い | 自宅から遠い | 知らなかった | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| スクールカウンセラー（N=175） | 29.7% | 40.6% | 0.6% | 0.6% | 16.0% | 12.6% |
| スクールソーシャルワーカー（N=310） | 14.5% | 27.4% | － | 0.3% | 46.1% | 11.6% |
| 医療機関（N=127） | 26.8% | 23.6% | 3.1% | 3.9% | 20.5% | 22.0% |
| フリースクール（N=326） | 26.7% | 16.9% | 20.2% | 9.2% | 16.0% | 11.0% |
| 放課後等デイサービス（N=300） | 24.0% | 22.3% | 1.0% | 3.3% | 33.3% | 16.0% |
| 市町村教育支援センター（N=316） | 15.2% | 21.8% | 0.3% | 4.1% | 42.1% | 16.5% |
| 鹿児島県総合教育センター（N＝382） | 6.8% | 18.8% | 0.5% | 16.5% | 45.5% | 11.8% |
| 市町村教育委員会（N=317） | 11.4% | 26.8% | 0.6% | 2.2% | 43.2% | 15.8% |
| 鹿児島県子ども総合療育センター（N=348） | 7.2% | 21.6% | － | 15.8% | 43.1% | 12.4% |
| 鹿児島県精神保健福祉センター（N=404） | 5.2% | 19.6% | 0.5% | 13.1% | 50.0% | 11.6% |
| かごしま子ども・若者総合相談センター（N=392） | 5.6% | 20.4% | 0.3% | 12.8% | 49.5% | 11.5% |
| 児童相談所（N=368） | 9.0% | 29.6% | 0.3% | 6.3% | 40.8% | 14.1% |
| 子ども家庭支援センター（N=377） | 9.0% | 21.8% | 0.3% | 2.7% | 52.5% | 13.8% |
| 指定障害者相談支援事業所（N=367） | 7.4% | 20.2% | 0.3% | 2.7% | 55.0% | 14.4% |
| 子ども食堂（N=373） | 16.6% | 19.8% | 0.5% | 4.3% | 43.7% | 15.0% |

## ウ　子どもが学校に行けなくなったとき，あったらよかったと思う支援（160ページ）

相談機関・支援機関を利用していない保護者（146名）に対して，子どもが学校に行けなくなったとき，どのような支援や情報などがあったら良かったと思うか質問した結果，「学校以外の勉強ができる場所の情報提供」，「学校以外の居場所の情報提供」などの回答が多かった。

| お子様が学校に行けなくなった（行かなくなった）とき，どのような支援や提案，情報があったらよかったか（N＝146）　（複数回答可） | N | % |
|---|---|---|
| 学校以外の勉強ができる場所の情報提供 | 57 | 39.0 |
| 学校以外の居場所（遊んだり，ひとりで過ごせる場所）の情報提供 | 50 | 34.2 |
| 学校以外の相談できる場所の情報提供 | 30 | 20.5 |
| 学校の先生への相談 | 28 | 19.2 |
| 相談可能な病院の情報提供 | 24 | 16.4 |
| 保護者同士で悩みを語り合える場 | 20 | 13.7 |
| 病気や障害等に対する周囲の理解 | 20 | 13.7 |
| 病気や障害等についての相談・支援 | 16 | 11.0 |
| 同級生や友だちからの声かけ | 14 | 9.6 |
| 保護者の相談場所 | 12 | 8.2 |
| スクールカウンセラーへの相談 | 12 | 8.2 |
| 学校の先生による家庭訪問 | 10 | 6.8 |
| スクールソーシャルワーカーへの相談 | 9 | 6.2 |

## エ　利用している施設を選んだ理由（144ページ）

子どもが利用しているフリースクール等の施設を選んだ理由について，第1位から第3位までを選択させ，第1位の回答数に3点，第2位の回答数に2点，第3位の回答数に1点をかけ，集計を行った結果，「子ども自身が決めたから」，「施設の雰囲気」，「自宅から距離が近かったから」の得点が高かった。

| 利用している施設を選んだ理由　（第１位～第３位を回答） | N |
|---|---|
| 子ども自身が決めたから | 265 |
| 施設の雰囲気 | 178 |
| 自宅から距離が近かったから | 145 |
| 学習内容（個別または集団での学習） | 82 |
| 医療・心理的な支援（カウンセリング等） | 64 |
| 保護者への支援 | 55 |
| 体験利用があった | 54 |
| 費用面 | 50 |
| 自然体験（自然観察，農業体験など） | 33 |
| 利用者の雰囲気 | 27 |
| スポーツ活動 | 21 |
| 口コミなどの評判 | 20 |
| 芸術・創作活動（音楽，美術，工芸など） | 19 |

## オ　施設の利用頻度について（147ページ）

フリースクール等の施設の利用頻度について，保護者に質問した結果，「週１～２回程度」が最も多く55.1%である。次いで，「週５～７回程度」（20.5%），「週３～４回程度」（15.6%）である。

| フリースクール等の利用頻度（Ｎ＝205）　（単一回答） | N | % |
|---|---|---|
| 週１～２回程度 | 113 | 55.1 |
| 週３～４回程度 | 32 | 15.6 |
| 週５～７回程度 | 42 | 20.5 |
| 無回答 | 18 | 8.8 |

## カ　利用にかかる費用（月額）（148ページ）

フリースクール等の施設利用にかかる費用（月額）について，保護者に質問した結果，「無料」が最も多く45.0%であるが，２万円以上も12%であった。

| フリースクール等の利用にかかる費用（月額）（Ｎ＝200）（自由記述） | N | % |
|---|---|---|
| 無料 | 90 | 45.0 |
| ５，000円以下 | 65 | 32.5 |
| ５，000円超　10，000円以下 | 14 | 7.0 |
| 10，000円超　20，000円以下 | 7 | 3.5 |
| 20，000円超　40，000円以下 | 18 | 9.0 |
| 40，000円超 | 6 | 3.0 |

## キ　施設利用後に子に見られた変化（150～152ページ）

子どもがフリースクール等の施設に通いはじめてから，子どもに見られた変化について，第1位から第3位までを選択させ，第1位の回答数に3点，第2位の回答数に2点，第3位の回答数に1点をかけ，集計を行った結果，「居場所を得ることができた」，「施設スタッフとのコミュニケーションが増えた」，「外出の機会が増えた」の得点が高かった。

| 施設に通い始めてから，お子様に見られた変化　（第１位～第３位を回答） | N |
|---|---|
| 居場所を得ることができた | 268 |
| 施設スタッフとのコミュニケーションが増えた | 180 |
| 外出の機会が増えた | 154 |
| 友人との会話が増えた | 92 |
| 特になし | 85 |
| 家族との会話が増えた | 71 |
| 生活のリズムが整った | 67 |
| その他（自由記述） | 63 |
| 社会全般についての興味の幅が広がった | 53 |
| 身体の不調を訴えることが減った | 39 |

○　その他（自由記述）
- 好きなことや特技を見つけることができて，自信がついた様子だった。
- 明るくなった。自己肯定感が少し高まった。
- 動画撮影などたくさん取り組むことができて，才能が伸びました。
- 色々な経験を積むことができ，社会性や成功体験を得る機会の場になっている。
- 自然と学習意欲もでてきて，自ら受験の事も考え目標をもち，勉強に取り組むようになりました。

## ク　利用している施設に期待すること（157ページ）

子どもが利用している施設に対して，今後どのようなことを期待するか，第1位から第3位までを選択させ，第1位の回答数に3点，第2位の回答数に2点，第3位の回答数に1点をかけ，集計を行った結果，「特性や成長に合わせた支援の充実」，「学校に代わる学習機会の確保」，「居場所の提供」の得点が高かった。

| 利用している（利用していた）施設に対して，今後どのようなことを期待しますか。（第１位～第３位を回答） | N |
|---|---|
| 子どもの特性や成長に合わせた支援の充実（発達障害の支援を含む） | 201 |
| 学校に代わる学習機会の確保 | 194 |
| 居場所の提供 | 190 |
| 友人関係の構築 | 104 |
| 進学・就職のための支援の充実 | 77 |
| 民間施設独自の体験の充実 | 68 |
| 民間施設独自の学習（学習機会）の充実 | 64 |
| 外出する機会の確保 | 51 |
| 生活リズムの構築 | 45 |
| 保護者への支援の充実 | 41 |
| その他 | 38 |
| 食事の機会の確保 | 11 |

## ケ　保護者調査クロス集計の結果（抜粋）

【「フリースクール等を知ったきっかけ」と学校へ行っていない日数との関係】（179ページ）

- 学校に行っていない日数が比較的短い（20日～90日）児童生徒を持つ保護者は，学校や公的機関からの紹介の割合が高い。
- 学校に行っていない日数が多い（120日以上）児童生徒を持つ保護者は，インターネットでの情報を基に施設利用に至る割合が高い。

【「フリースクール等の施設の利用頻度」と圏域との関係】（181ページ）

- 鹿児島圏域と姶良・伊佐圏域では「週５～７回程度」の利用頻度の割合が他の圏域と比較して高くなっている。一方，熊毛圏域と大島圏域では「週１～２回程度」の利用頻度の割合が他の圏域と比較して高くなっている。

【「施設利用後に子に見られた変化」と学校へ行っていない日数との関係】（183ページ）

- 学校に行っていない日数が比較的短い（20日～120日）児童生徒を持つ保護者は，「居場所を得ることができた」の割合が高い。
- 学校に行っていない日数が多い（120日以上）児童生徒を持つ保護者は，「外出の機会が増えた」の割合が増加している。

## コ　相談機関・支援機関を利用しなかった理由や困りごと（自由記述・抜粋）

【本人や家族の身体的・心理的・経済的制約】（199～200ページ）

- 子どもが行きたがらない。フリースクール，放デイ，子ども食堂など，子供が利用する場所は本人が嫌がることも多い。
- フリースクールの利用も検討しましたが，自宅から遠いうえ，利用料がかかり家計への負担，他の兄弟への負担が大きいため断念した。

【情報がない，違いが分からない】（201～202ページ）

- フリースクールや放課後等デイサービスなど興味はありますが，学校からも医療機関等からも何も情報がないので分かりません。
- いろいろありすぎて，まずどこに相談したらいいのか，とても迷ってしまった。それぞれの違いがよく分からなかった。

【関係機関の連携不足】（213ページ，216ページ）

- 何処の機関に行っても辛い状況で，1からお話しするので精神的な負担が大きいです。子供の状況を分かって貰う為には必要な事ですが，機関同士の横の繋がり，情報の共有が難しいなら，カウンセリングノートなどで共有できたら良かったと思います。
- 教育委員会と各部署の連携が取れておらず，それぞれに同じ内容説明をせねばならないこと。

【保護者の支援】（210ページ，217ページ）

- うちは，行かなくなったはじめの時に，こどもを早く行かせようとしてしまった。もっと最初の時に休んでも大丈夫なんだと親も思えたらよかった。今ではとても後悔してます。親の対応が1番ですが，はじめにどうすれば良いかを，もっと相談できたらありがたいです。
- 子供の居場所も必要だが，親の理解者も必要じゃないかと思う。

# 4　調査結果（施設）（抜粋）

## ア　施設の概況（234～242ページ）

### ①　施設の所在地（地域振興局・支庁管内）

| 圏域（N＝37） | N | % |
|---|---|---|
| 鹿児島地域振興局 | 14 | 37.8 |
| 南薩地域振興局 | 3 | 8.1 |
| 北薩地域振興局 | 1 | 2.7 |
| 姶良・伊佐地域振興局 | 6 | 16.2 |
| 大隅地域振興局 | 11 | 29.7 |
| 熊毛支庁 | 1 | 2.7 |
| 大島支庁 | 1 | 2.7 |

### ②　施設の法人格等

| 法人格等（N＝37） | N | % |
|---|---|---|
| NPO法人 | 9 | 24.3 |
| 株式会社 | 8 | 21.6 |
| 一般社団法人・一般財団法人 | 5 | 13.5 |
| 学校法人 | 1 | 2.7 |
| 個人事業主 | 3 | 8.1 |
| その他 | 11 | 29.7 |

### ③　施設の常勤職員数

| 常勤職員数（N＝37） | N | % |
|---|---|---|
| 0名 | 1 | 2.7 |
| 1～2名 | 10 | 27.0 |
| 3～4名 | 9 | 24.3 |
| 5～6名 | 10 | 27.0 |
| 8名 | 2 | 5.4 |
| 無回答 | 5 | 13.5 |

※　施設の常勤職員数について，フリースクールは，1名～2名の施設が多い。
　一方で，放課後等デイサービスは，5名～6名の施設が多い。

## ア　施設の概況（続き）

④　職員の保有資格数（複数回答可）

| 保有資格数（N＝81） | N | % |
|---|---|---|
| 教員免許 | 21 | 25.9 |
| 臨床心理士・公認心理師 | 8 | 9.9 |
| 看護師 | 8 | 9.9 |
| 社会福祉士 | 5 | 6.2 |
| 精神保健福祉士 | 3 | 3.7 |
| その他 | 24 | 29.6 |
| 特になし | 12 | 14.8 |

※その他では，「保育士」という回答が17名

⑥　スタッフ1名で見ている子どもの数

| 子どもの数（N＝37） | N | % |
|---|---|---|
| 1～2名 | 6 | 16.2 |
| 3～4名 | 18 | 48.6 |
| 5～6名 | 6 | 16.2 |
| 7～9名 | 3 | 8.1 |
| 10名以上 | 1 | 2.7 |
| 無回答 | 3 | 8.1 |

⑤　施設の在籍人数（令和7年1月1日時点）

| 施設の在籍人数（N＝37） | N | % |
|---|---|---|
| 10名未満 | 8 | 21.6 |
| 10名～20名未満 | 10 | 27.0 |
| 20名～30名未満 | 8 | 21.6 |
| 30名～50名未満 | 7 | 18.9 |
| 50名以上 | 4 | 10.8 |

※　施設の在籍人数について，フリースクールは，数名～20名未満の施設が多く，小学生より中学生の在籍が多い傾向にある。
　一方で，放課後等デイサービスは，20名以上の施設が多く，中学生より小学生の在籍がが多い傾向にある。

## ア　施設の概況（続き）

### ⑦　フリースクール等の入会金等（249ページ）

○　無料（16施設）
・初期費用はなし
・今のところ無料にしています　など

○　１万円未満（１施設）
・8,800円または7,700円

○　２万円（２施設）

○　４万円以上（２施設）
・44,000円
・入学金42,000円

### ⑧　フリースクール等の授業料（249ページ）

○　無料（10施設）
・授業料等はなし
・現金はいただいていない　など

○　有料（12施設）
・１日：1,000円
・月額：15,000円
・日割：1,800円，週３：18,000円，週５：30,000円
・月額：33,000円
・週１：11,800円，週２：23,500円，週３：35,000円
週５：40,000円（ひとり親家庭全て半額）

※　入会金，授業料について，放課後等デイサービスは無料であるが，フリースクールは一部の施設を除いて有料となっている。授業料の金額については，１万円～４万円と施設によって幅がある。

### ⑨　施設の平均的な開所時間と利用人数

| | 午前 | | 午後（放課後除く） | | 放課後 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 開所時間 | 利用人数 | 開所時間 | 利用人数 | 開所時間 | 利用人数 |
| 月曜日 | 2時間32分 | 4.6人 | 2時間48分 | 5.3人 | 3時間12分 | 8.5人 |
| 火曜日 | 2時間34分 | 4.5人 | 3時間23分 | 4.7人 | 3時間20分 | 7.4人 |
| 水曜日 | 2時間26分 | 5.1人 | 4時間09分 | 5.7人 | 3時間06分 | 7.4人 |
| 木曜日 | 2時間37分 | 4.0人 | 2時間46分 | 4.4人 | 3時間16分 | 8.0人 |
| 金曜日 | 2時間37分 | 4.4人 | 3時間35分 | 4.9人 | 3時間12分 | 9.0人 |
| 土曜日 | 3時間01分 | 6.5人 | 5時間04分 | 6.7人 | 4時間25分 | 7.2人 |
| 日曜日 | 2時間50分 | 5.7人 | 4時間40分 | 5.7人 | 2時間30分 | 5.7人 |

## イ　施設の役割（243ページ）

施設の役割をどのように考えているか，施設運営者に質問した結果，「学校，家以外の居場所」，「運動，創作活動，自然体験などの活動の場」などの回答が多かった。

| 貴施設の役割をどのように考えているか。（N＝37）（単一回答） | N | % |
|---|---|---|
| 学校，家以外の居場所 | 13 | 35.1 |
| 運動，創作活動，自然体験などの活動の場 | 8 | 21.6 |
| 対人スキル・生活スキルのトレーニングの場 | 7 | 18.9 |
| 学習支援・進路相談の場 | 4 | 10.8 |
| その他 | 4 | 10.8 |
| 児童・生徒同士の交流の場 | 1 | 2.7 |
| 医療・心理的な支援（カウンセリング，心理検査等）の場 | － | － |
| 保護者への支援の場 | － | － |

○　その他（自由記述）
- 子ども達の健全な成長
- 他者との交流を通じて，他者を知り，自分を知ることで，自分で自分の力を育てる場
- 相談
- 学校（人生について学ぶ場）

## ウ　施設の主な活動内容（243ページ）

施設の主な活動内容について，施設運営者に質問した結果，「調理体験」，「芸術・創作活動」「スポーツ活動」，「居場所の提供」などの回答が多かった。

| 貴施設の主な活動内容（N＝37）（複数回答可） | N | % |
|---|---|---|
| 調理体験（お菓子づくり，郷土食づくり　など） | 30 | 81.1 |
| 芸術・創作活動（音楽，美術，工芸　など） | 27 | 73.0 |
| スポーツ活動 | 27 | 73.0 |
| 居場所の提供 | 27 | 73.0 |
| 個別の学習 | 24 | 64.9 |
| 発達障害等の支援 | 24 | 64.9 |
| 自然体験（自然観察，農業体験　など） | 23 | 62.2 |
| 社会体験（見学，職場体験　など） | 22 | 59.5 |
| 保護者同士の交流の場 | 19 | 51.4 |
| 地域活動 | 17 | 45.9 |
| 子どもたちによるミーティング | 17 | 45.9 |
| 相談・カウンセリング | 15 | 40.5 |
| 宿泊体験 | 10 | 27.0 |
| 授業形式（講義形式）による学習 | 8 | 21.6 |

## エ　在籍校・関係機関等との連携（252ページ）

児童生徒の在籍校や関係機関等との連携実績・頻度について，施設運営者に質問した結果，在籍校及び相談支援事業所以外は「年数回程度」から「連携していない」との回答が多かった。

| 在籍校・関係機関等との連携実績・頻度（N＝37）（単一回答） | 毎日 | 週1回以上 | 月1回以上 | 年数回程度 | 連携していない |
|---|---|---|---|---|---|
| 在籍校 | 1 | 1 | 14 | 15 | 4 |
| 在籍校以外の学校 | 0 | 0 | 1 | 7 | 19 |
| 市町村教育支援センター | 0 | 0 | 1 | 7 | 18 |
| 市町村教育委員会 | 0 | 0 | 2 | 19 | 11 |
| 市町村の福祉部局 | 0 | 1 | 3 | 16 | 9 |
| 社会福祉協議会 | 0 | 1 | 2 | 11 | 13 |
| 医療機関 | 0 | 0 | 2 | 15 | 11 |
| かごしま子ども・若者総合相談センター | 0 | 0 | 1 | 7 | 20 |
| 児童相談所 | 1 | 0 | 1 | 7 | 18 |
| 他のフリースクール等 | 0 | 0 | 3 | 14 | 12 |
| 相談支援事業所 | 0 | 3 | 8 | 8 | 11 |

## オ　施設運営や児童生徒の支援に関する課題（255～256ページ）

施設の運営や児童生徒の支援に関する課題について，第1位から第3位までを選択させ，第1位の回答数に3点，第2位の回答数に2点，第3位の回答数に1点をかけ，集計を行った結果，「人材の確保が困難」，「施設運営が経済的に厳しいこと（自由記述）」，「学校・行政機関等との連携・つながり不足」，「スタッフへの研修が不十分」などの得点が高かった。

| 貴施設が考えるフリースクール運営や児童生徒の支援に関する課題について（第１位～第３位を回答） | N |
|---|---|
| 人材の確保が困難 | 46 |
| その他（自由記述） | 27 |
| 学校・行政機関等との連携・つながり不足 | 22 |
| スタッフへの研修が不十分 | 18 |
| 児童生徒・保護者に対する施設の周知不足 | 15 |
| 生活困窮世帯への対応 | 13 |
| 専門職による支援が必要な児童生徒の増加（障害，発達特性，外国籍，希死念慮等） | 10 |
| 家庭への支援 | 10 |
| 活動場所（施設）の確保，老朽化 | 6 |
| 学校・行政機関等に対する施設の周知不足 | 6 |
| ICT機器への対応 | 5 |

## オ　施設運営や児童生徒の支援に関する課題　（自由記述・抜粋）（256～257ページ）

【施設の運営資金確保】

- 運営を継続していくための資金確保（人件費，光熱費，設備費，事務費等）
- フリースクールを始めて3年目，いまだに人件費が出せる資金面の余裕が全くない。助成申請も狭き門，かつひとりで運営しているので書類作成も大きな負担で，申請できない。
- 運営に対する補助金がない。

【利用世帯の経済的負担】

- フリースクールでは，利用料が全額保護者負担となるのであれば，世帯によっては利用したいができない家庭がある。
- 利用していただいているご家庭は，やはり，利用料の負担が大きいと思います。それが理由で，居場所を利用したくてもできずに，家に引きこもっているこども達もまだまだたくさんいらっしゃるそうです。

【その他】

- 人材不足で勉強に関する支援や学びについて子供の希望にそえていない。
- 事務業務
- 業務内容の簡素化，効率化のための機器の導入

## カ　情報公開の状況（259ページ）

　ホームページやリーフレット等による施設の情報公開の状況について，施設運営者に質問した結果，「施設の運営方針」や「施設が提供する学びや活動内容」は，ほとんどの施設が公開している。一方で，「様々なケースに対する支援例」や「児童生徒・保護者の声」，「学校との連携状況」については，公開の割合は低くとどまっている。

| 施設の情報公開の状況（N＝37）（単一回答） | 公開している | 公開していない | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 施設の運営方針 | 100% | － | － |
| 施設が提供する学びや活動内容 | 97.3% | 2.7% | － |
| 様々なケースに対する支援例 | 32.4% | 56.8% | 10.8% |
| コース・料金 | 64.9% | 24.3% | 10.8% |
| スタッフ・施設紹介 | 64.9% | 29.7% | 5.4% |
| 児童生徒・保護者の声 | 48.6% | 40.5% | 10.8% |
| 学校との連携状況 | 21.6% | 64.9% | 13.5% |

## キ　施設の安全確保対策の状況（260ページ）

施設の安全確保対策の状況について，施設運営者に質問した結果，「災害時における避難経路の確保」や「損害賠償保険への加入」は多くの施設で実施されている一方で，「災害時における避難マニュアル（計画）の策定」や「避難訓練の実施」は低い割合であった。

| 安全確保対策の状況（N＝37）　（単一回答） | 実施している | 実施していない | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 災害時における避難経路の確保 | 78.4% | 16.2% | 5.4% |
| 災害時における避難マニュアル（計画）の策定 | 62.2% | 35.1% | 2.7% |
| 避難訓練の実施 | 59.5% | 37.8% | 2.7% |
| 損害賠償保険への加入 | 78.4% | 21.6% | － |

○　その他安全確保対策の状況（自由記述）

- AEDの設置，看護師の配置，救命救急訓練の実施，傷害保険への加入，食品衛生管理責任者の配置
- 支援員による救命救急講習受講
- スポーツ保険
- 安全管理についての話し合い，ガイドラインの作成
- BCPの研修，訓練も義務づけられているので実施している。その他，安全計画や不審者対応，置き去り防止訓練等も実施

## ５　調査結果のまとめ

ア　児童生徒は，学校に行けなくなったとき，「学校以外の居場所」や「学校以外に勉強できる場所」，「家族に相談できること」を必要としている。

　一方，学校に行けなくなったとき，フリースクールや放課後等デイサービス，教育支援センターなど，いずれの施設も利用していない児童生徒は，21.4%であった。

　なお，児童生徒がフリースクール等に通っている場合は，子供たち同士で遊ぶ活動や個別の学習，体験活動など，フリースクール等が提供する様々な活動について役に立った・楽しかったと考えている。

イ　保護者は，相談機関・支援機関を利用しなかった理由として，情報がないことを挙げており，「学校以外の勉強ができる場所」や「居場所」，「相談できる場所」の情報を必要としている。

　フリースクール等の施設の利用頻度については，週１，２回程度が多く，施設に対して，「子どもの特性や成長に合わせた支援の充実」や「学校に代わる学習機会の確保」などを期待している。

　また，保護者の自由記述からは，フリースクール等の相談機関・支援機関を利用するにあたって，心理的・経済的な制約，関係機関の連携不足，保護者支援の不足などに困っていることが分かる。

ウ　施設は，フリースクールか放課後等デイサービスかによって，職員数や児童生徒の在籍人数，授業料等に違いがある。

　また，人材の確保，施設運営のための資金確保，学校・関係機関等との連携，スタッフの資質向上に課題が生じている。